

証券コード：3842

2019年3月期 第2四半期 決算補足資料

株式会社ネクストジェン



NEXTGEN
connect to the next generation

1

2019年3月期 第2四半期の業績

2

2019年3月期 上期トピックス

3

通期の見通し

2019年3月期 2Q連結業績のポイント



売上高 11億61百万円（前年同期比17.27%増）

- 大手移動通信事業者向けにセキュリティ診断案件が増加
- 消費者金融、鉄道会社等への通話録音ソリューション販売が増加
- 子会社では受託開発案件及び自社製品が電力会社において採用され、販売が増加
- 一方当社ソフトウェア製品は、納品時期が今年度末に集中しており、前年同期（2Q）比では販売が減少

営業損失 2億69百万円（前年同期は営業損失2億19百万円）

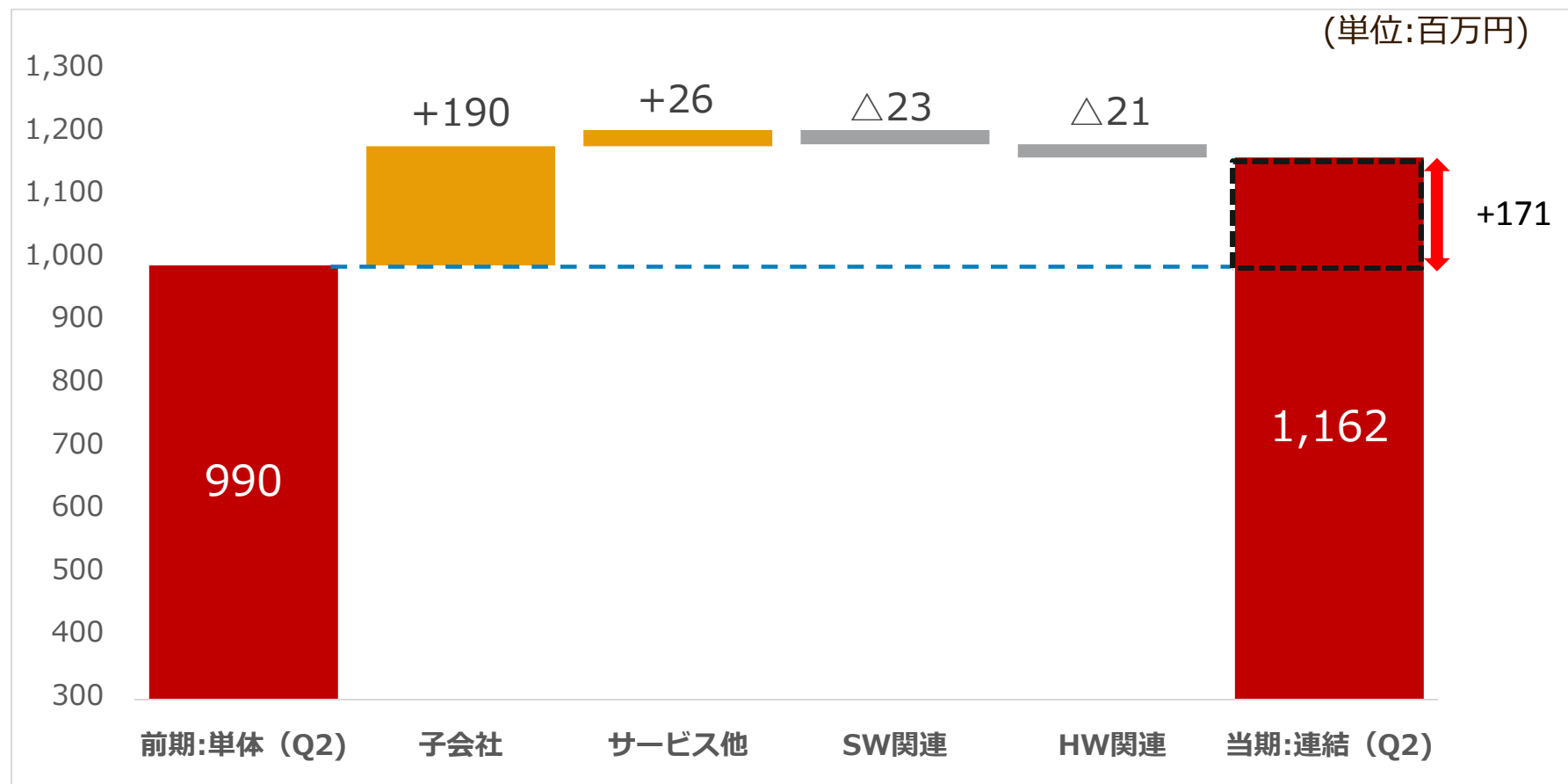
- 子会社設立に伴う人件費・諸経費をはじめとした固定費等の増加

今期も下期偏重傾向（2Q受注残が前年同期比17.46%増）

- 大手通信事業社向けにクラウドPBXサービスの大型案件を獲得
- 当社ソフトウェア製品の構築支援、機器販売等の増加等
- 例年4Qに販売が集中するため、今期計画でも1～3Qまでの収益水準は低くなる見通し

※ 前年同期（2Q）決算数値は単体数値であるため、参考として比較しております。

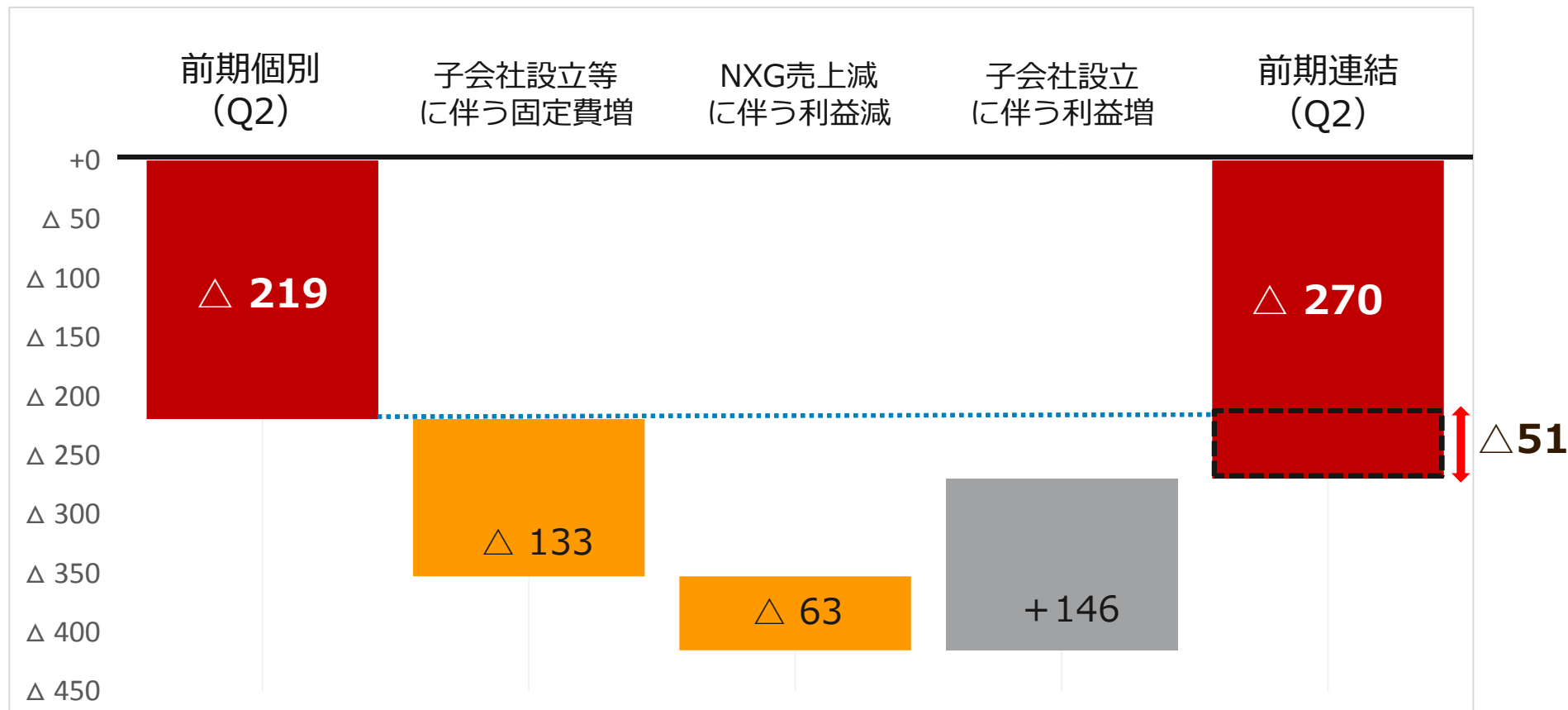
2019年3月期 2Q連結売上高の状況



※ 前年2Q決算数値は単体数値であるため、参考として比較しております。

- 子会社の自社製品・保守サービス等を中心とした販売が増収に寄与
- ソフトウェア関連としては、自社ソフトウェア製品の前年同期比減が、構築系売上増でカバーできなかった。通録システムはハードからソフト製品に移行となりHW関連としても微減となった。

2019年3月期 2Q連結営業損失の状況



※ 前年2Q決算数値は単体数値であるため、参考として比較しております。

- 子会社設立に伴い人件費・諸経費をはじめとした固定費等が増加。
- 固定費増と当社（NXG）単体売上の減少による利益減を、子会社売上増による利益増にてカバーできなかったため、前期比で連結営業損失が拡大した。

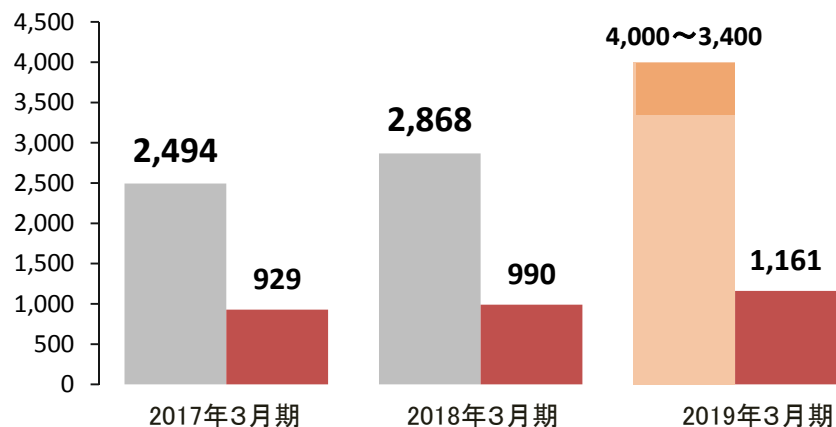
2019年3月期 2Q連結業績ハイライト



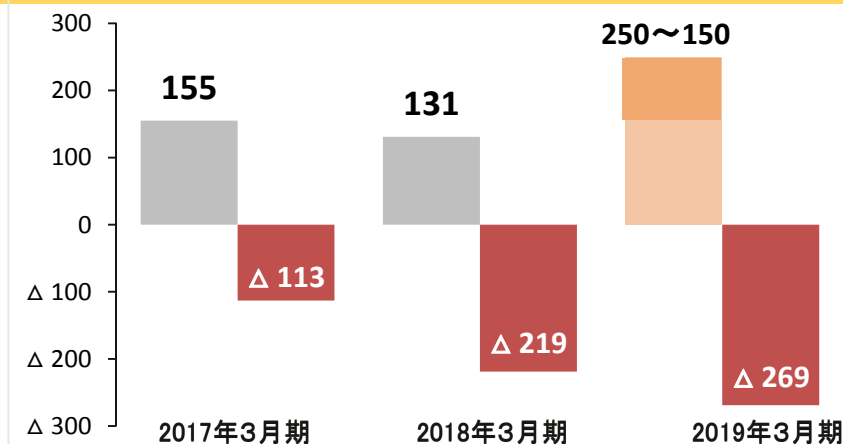
(単位:百万円)

■ 2Q実績 ■ 通期実績 ■ 通期予想

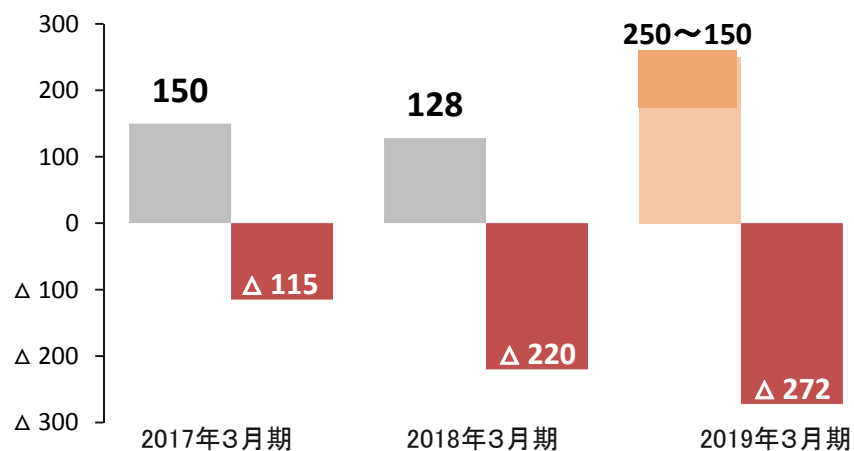
売上高



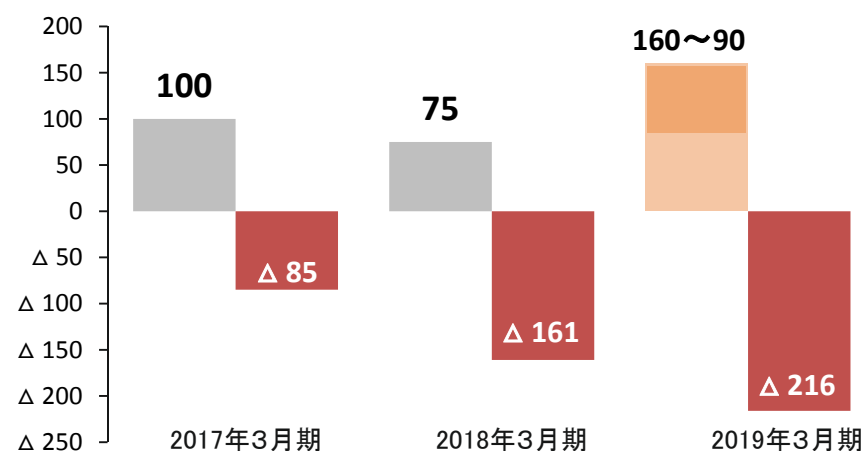
営業利益



経常利益



当期純利益



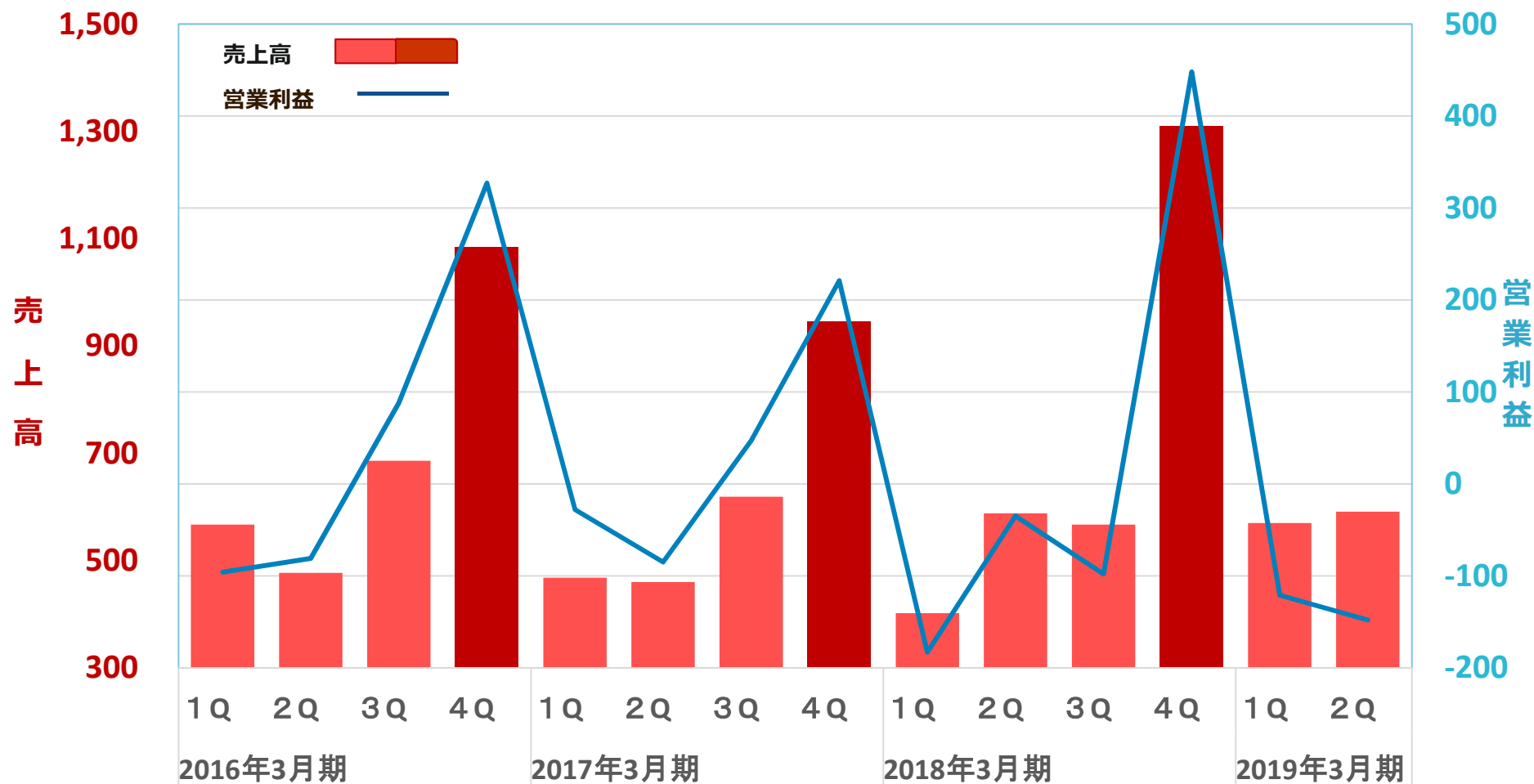
- ・ 2018年3月期3Qまでは単体決算、2018年3月期4Qより連結決算に移行
- ・ 2Qについては、当初より赤字を見込んでおり、ほぼ想定された範囲内に収まった。

業績の四半期別トレンド



- 4Qに売上高及び営業利益が集中する事業特性あり
- 通期では期初の計画通りとなる見通し

(単位:百万円)



※ 2018年3月期3Qまでは単体決算、2018年3月期4Qより連結決算に移行

第2四半期累計期間 損益計算書 (連結)



	2018年3月期 2Q累計(単体)	2019年3月期 2Q累計(連結)	前年 同期比
売上高	990	1,161	171
売上原価	656	814	158
売上総利益	334	346	12
販管費	553	616	62
営業損失(△)	△ 219	△ 269	△ 50
営業外収益	0	0	0
営業外費用	1	3	1
経常損失(△)	△ 220	△ 272	△ 52
特別利益	0	0	0
特別損失	0	0	0
税金等調整前 四半期純損失(△)	△ 220	△ 271	△ 51
法人税等	△ 59	△ 55	3
親会社株主に帰属する 四半期純損失(△)	△ 161	△ 216	△ 55

(単位:百万円)

売上高の内訳 (前年比)

- ・当社(単体)売上高 △19百万円
- ・連結子会社の売上高 190百万円
- ※グループ間の内部取引を除く

※2Q受注残高

- ・2018/3月期2Q末 693百万円
- ・2019/3月期2Q末 814百万円
- ・前年との差額 +121百万円

今後の業績見通しを踏まえ、今期においても繰延税金資産を計上

※ 前年2Q決算数値は単体数値であるため、参考として比較しております。

第2四半期 貸借対照表 (連結)



(単位:百万円)

	2018年3月期 期末	2019年3月期 2Q期末	前期末 からの増減
資産の部			
流動資産	2,129	1,982	△ 146
有形固定資産	91	84	△ 6
無形固定資産	806	846	40
投資その他の資産	86	137	51
資産 合計	3,113	3,051	△ 61
負債及び純資産の部			
流動負債	820	877	56
固定負債	673	744	70
負債 合計	1,494	1,621	127
純資産 合計	1,618	1,429	△ 188
負債及び純資産合計	3,113	3,051	△ 61

〔主な増加要因〕
 現預金 +364百万円
 製品等 +18百万円
 前払費用 +67百万円
 ソフトウェア資産 +56百万円
 繰延税金資産 +56百万円

〔主な減少要因〕
 売掛金 △604百万円
 のれん △15百万円

〔主な増加要因〕
 借入金 +131百万円
 前受金 +139百万円

〔主な減少要因〕
 買掛金 △44百万円
 未払法人税等 △51百万円
 未払消費税等 △54百万円

〔主な増加要因〕
 資本金 +18百万円
 資本剰余金 +18百万円

〔主な減少要因〕
 新株予約権 △3百万円
 利益剰余金 △222百万円

第2四半期 キャッシュ・フロー計算書（連結）



	2018年3月期2Q累計 (単体)	2019年3月期2Q累計 (連結)	前年同期比
営業活動によるCF	81	445	364
税引前四半期純利益	△ 220	△ 271	△ 51
減価償却費	164	167	2
売上債権の増減額	327	604	276
たな卸資産の増減額	△ 90	△ 39	50
その他	△ 100	△ 14	85
投資活動によるCF	△ 158	△ 241	△ 82
有形固定資産の取得による支出	△ 17	△ 18	△ 1
無形固定資産の取得による支出	△ 141	△ 222	△ 80
財務活動によるCF	390	160	△ 230
長期借入れによる収入	500	300	△ 200
長期借入金の返済による支出	△ 107	△ 168	△ 60
その他	△ 1	28	30
現金及び現金同等物の増減額	312	364	51
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,049	1,103	54
フリーCF	△ 77	204	282

- ・ 無形固定資産（自社ソフトウェア）開発投資が増加したことで前年同期比の投資CFは△82百万円となった。
- ・ 一方で前期4Qに計上した売上金が順調に回収されたことで前年同期比の営業CFは+364百万円となり、フリーCFも+282百万円と大きく改善。

※ 前年2Q決算数値は単体数値であるため、参考として比較しております。

1

2019年3月期 第2四半期の業績

2

2019年3月期 上期トピックス

3

通期の見通し

上期トピックス①



LINE電話の法人活用のソリューションにNX-B5000が採用

LINEを主なコミュニケーションツールとして利用する消費者の増加に伴い、LINE電話とコンタクトセンターのプラットフォームを接続するための異装置接続システムとして、NX-B5000 for Enterpriseが採用

当社オリジナル通録のソフトウェアLA-6000が好調

大手金融機関のコールセンターや大手鉄道事業者に、AvayaやNECの他社製品との連携が可能な、検索性の高い通話録音製品LA-6000を商用導入

働き方改革RPA関連の案件が堅調

経済産業省が推進するIT導入補助金制度の補助金交付対象ソリューションとなっている、RPAソリューションの「WinActor」は、引合が増加

上期トピックス②



サカイ引越センターに音声認識対応NGN-IVRを導入

顧客からの電話問合せに対し、当社製品NGN-IVRにより音声を高い精度で認識。音声応答・認識により適切な部署に自動的に振り分けが可能に。生産性が向上し、顧客満足度が向上

2月より稼働を開始した子会社の活動が本格化

音声パケットを収集し音声認識ソリューションに接続する通信機器の大型案件を、子会社である株式会社NextGenビジネスソリューションズで受注

CPaaS事業に特化した子会社である株式会社LignApps を設立

CPaaSは海外では既に認知・活用されているサービス。日本国内においても、顧客サービスのオムニチャネル化など複数のアプリケーションを組合わせた利用ニーズが増加していることから、市場の急拡大を見込む

事業方針① MNO/MVNO関連市場への本格展開

MNO/MVNOに対する幅広い通信ソリューション・サービスを提供

事業方針② CPaaS事業への本格参入

CPaaS事業に特化した子会社である株式会社LignAppsの設立

事業方針③ ネットワークセキュリティ事業の展開

5G化に対応したセキュリティ・ソリューションの提供

事業方針④ 音声認識&AIサービスの普及

音声認識を活用した付加価値サービスの提供

事業方針⑤ 働き方改革ソリューションの展開

BYODやRPAなどによる業務効率と労働生産性の向上を実現

◆MNO/MVNO市場は引き続き拡大傾向

- 楽天モバイルネットワークが2018年4月に総務大臣より認定を受け、MNOとして2019年10月のサービス開始を目指す
- MNO、MVNOはサービス差別化や仮想化等のため設備投資は継続。5Gに向けて投資拡大へ

◆当社方針

- 市場の変化を捉え、トラフィックの増大対応(PCRF/PCEF)、システム間の業務の自動化(メディエーション)などの幅広いソリューションで市場をカバー

◆積極的な提案により市場獲得へ

- 大手通信事業者のフルMVNO化の支援提案中
- 通信事業者のMNO構築において、SI支援を実施。
- 国内外のパートナーとも協業し、大手通信事業者のMVNOの基盤整備に動く

今後3年間累計で20億円の売上を見込む

◆ 子会社の設立

CPaaS事業に特化した当社100%子会社株式会社LignAppsを設立

◆ 子会社の概要

- 名称：株式会社LignApps
(読み仮名：ラインアップス、英文名： LignApps,Inc.)
- 事業内容：CPaaS事業、UPaaS事業、クラウドアプリケーション/IT/ネットワークに関するコンサルティング及びインテグレーションサービス
- 本店所在地：東京都港区白金 1 丁目27番6号
- 代表者の役職・氏名：代表取締役 吾郷 真治
- 資本金：35百万円
- 大株主/持株比率：株式会社ネクストジェン/100%

◆ CPaaSとは

「マルチメディアコミュニケーション機能をAPI *1 で提供するクラウド基盤」既存アプリケーションからAPIを使って、電話、ビデオ、ショートメッセージ、会議、画面共有、チャット、通話録音、IVRなどを利用することができ、APIなどによって付加サービスを容易に開発できる

◆ CPaaS市場は急拡大

- 日本のPaaS市場は、2016年には820億円、2021年には2,602億円と、5年で3.17倍で成長する見通し
- 海外では既に市場が急速に拡大

◆ 引合は好調

- M2M、IoT関連の案件を中心に展開
- 特にリアルタイムなSMSの配信基盤としてのニーズが拡大

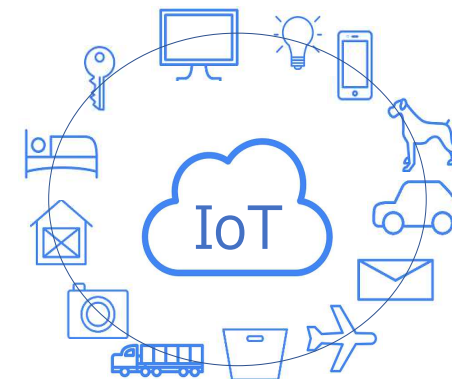
◆ 今後の展開

- 既存のシステムを活用できるのが強みであり、B2C向けのマーケティングツールやコールセンターのデジタル化に伴うオムニチャネル展開を支援
- CPaaSには、電話の発着信、IVR、通話録音などコールセンターに必要な機能が含まれている。コールセンター開設、サポート業務など支援

今後3年間で10億円の事業創出を目指す。

◆ セキュリティ事業のニーズが拡大

- 5G化（IoTなどの普及）に伴い需要が拡大
- 東京オリンピック・パラリンピックに備えてセキュリティ対策強化が拡大



◆ 当社方針

- 5GサービスNWやIoTサービスNWに対するセキュリティソリューションの展開を計画
- 大手通信事業者のサービスコアNWにおけるセキュリティ対策強化へ協力
- セキュリティコンサルの適用範囲、対応技術を拡大し、蓄積したノウハウをソフトウェア化、自動化、クラウドサービス化する

◆ 欧州での新展開

- 欧州でのネットワークセキュリティのニーズ拡大を受け、テレコム分野の国際的なコンサルティング会社と販売代理店契約を締結。欧州大手通信事業者向けセキュリティ診断を受注

今後3年間で累積10億円程度のセキュリティ診断事業を創出する

事業方針④ 音声認識&AIサービスの普及



◆音声認識サービスの市場が急拡大

- 2017年度から2022年度までの年平均成長率は約50%の予想

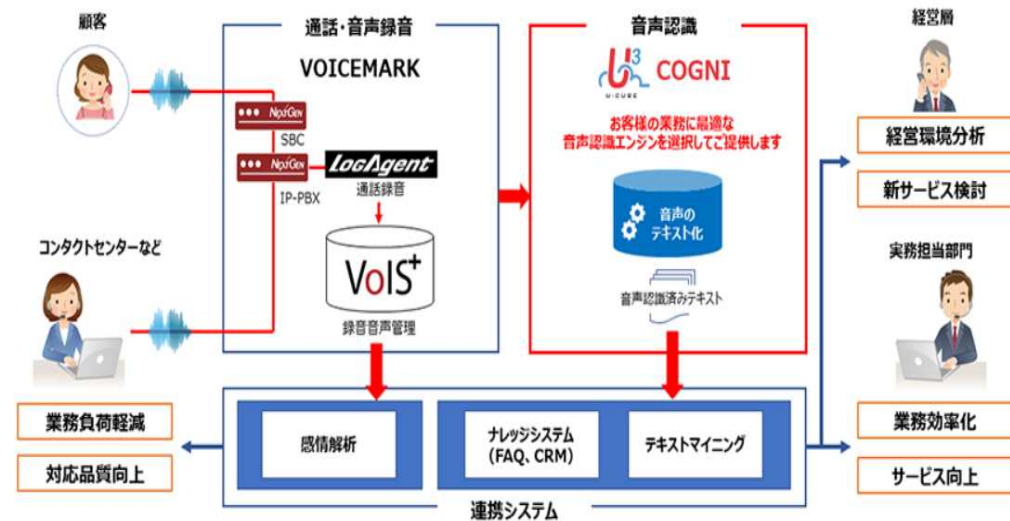
◆当社方針

- 音声認識サービス「U³ COGNI」（SMBC日興証券に導入済）の拡販
- 産学連携（静岡大学、北海道大学）の活用による先進的なR&Dを推進
- パートナーシップによるサービスの多様化・高付加価値化

- 音声認識IVRの汎用品の製品化を計画。

2019年1月販売開始予定

- 子会社NxG-BSの
アプライアンス型の
音声認識製品「VOTEX」
の拡販



今後3年間で 15 億円の事業創出を目指す。

◆ 市場の状況

- 2016年～2021年には、ソフトウェア関連の年間平均成長率は11.9%で拡大し、3年後の市場規模は7,030億円（26.4%）と予測

◆ 成長要因

- 働き方改革関連法案の6月成立に伴い、テレワークなど多様で柔軟な働き方に必要な業務効率化ツールの市場が拡大する見込
- ロンドンにならない、東京五輪を契機に一段と普及の可能性

◆ 提供サービスとソリューション

- PCの定型業務の自動化を実現するRPA（Robotic Process Automation）「WinActor」や、音声認識を議事録作成などに活用するシステム「VOTEX」により定型業務の自動化・効率化を支援
- RPAソリューションであるWinActorは当社における補助金交付の対象ソリューションにもなっており、引合が増加
- クラウドPBX、CPaaS、音声認識&AI、などの提供により、ワークスタイルの変革、多様化を支援

1 2019年3月期 第2四半期の業績

2 2019年3月期 上期トピックス

3 通期の見通し

今期の見通し（連結・レンジ、変更なし）



	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (予想)
売上高	2,868	3,400~4,000
営業利益	131	150~250
経常利益	128	150~250
当期純利益	75	90~160
1株当たり 配当金	3円	未定

※ 2018年5月11日公表の連結業績予想数値から変更はありません

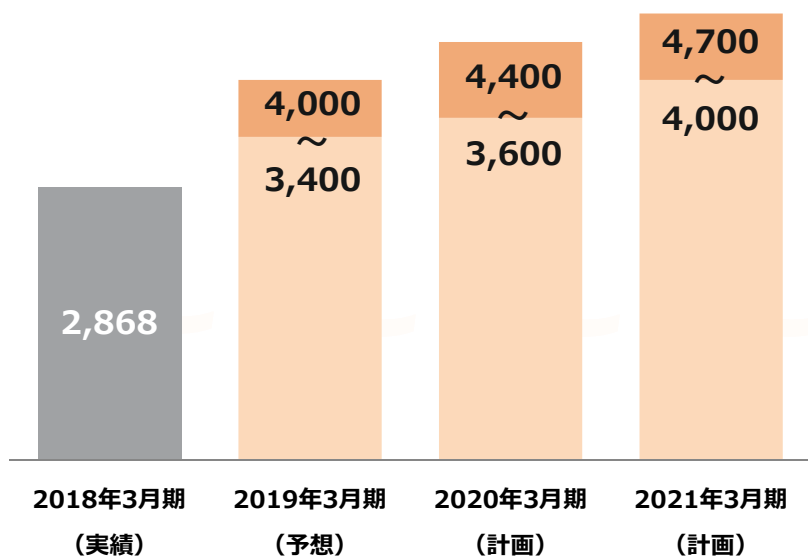
※ 配当予想は通期の業績見通しがより明らかになった段階で公表いたします

中期経営計画（レンジ、変更なし）

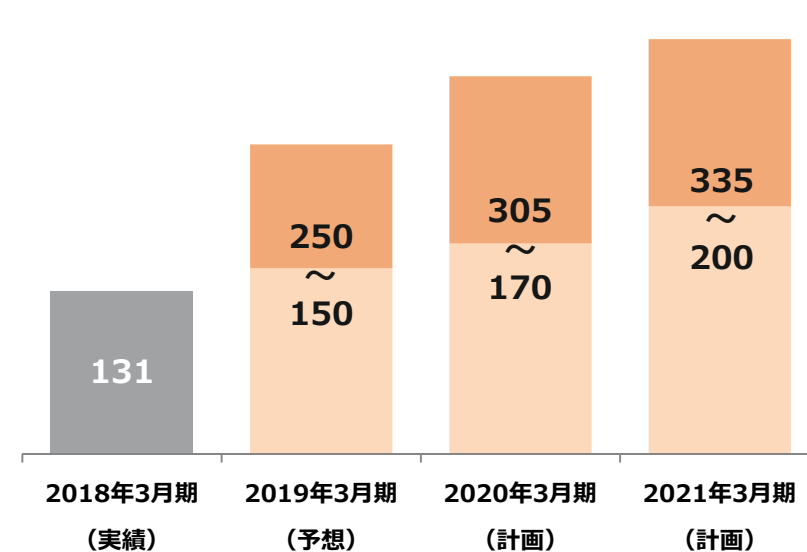


	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (予想)	2020年3月期 (計画)	2021年3月期 (計画)
売上高	2,868	3,400~4,000	3,600~4,400	4,000~4,700
営業利益	131	150~250	170~305	200~335
経常利益	128	150~250	165~300	195~330
当期純利益	75	90~160	100~190	120~205

売上高



営業利益



ネクストジェン会社概要



社名	株式会社ネクストジェン (Nextgen, Inc.)
設立	2001年11月
資本金	5億42百万円
従業員数	123名 (連結149名、2018年10月31日現在)
上場区分	東京証券取引所 JASDAQ グロース (証券コード：3842)
本社所在地	東京都港区白金1-27-6 白金高輪ステーションビル6F
役員構成	代表取締役 執行役員 社長 大西 新二 取締役 執行役員 天田 貴之 取締役 (社外) 曾我部 敦 取締役 (監査等委員・常勤) 渡辺 俊一 取締役 (監査等委員・社外) 三村 撰 取締役 (監査等委員・社外) 田中 達也
グループ会社	株式会社NextGenビジネスソリューションズ 株式会社 LignApps

NextGenビジネスソリューションズ会社概要



社名	株式会社NextGenビジネスソリューションズ
事業内容	1. 電話通信端末ネットワークインフラ機器開発・製造 2. システムソリューション開発 3. EMS (Electronics Manufacturing Service) 4. ソフトウェア受託開発
設立	2018年1月
資本金	30百万円
従業員数	24名 (2018年10月31日現在)
本社所在地	東京都港区西新橋3-24-9 飯田ビル2F
役員構成	代表取締役 社長 櫛田栄太郎 取締役 中野 能弘 取締役 安島 淳史 監査役 渡辺 俊一

LignApps会社概要



社名	株式会社 LignApps（読み仮名：ラインアップス）
事業内容	1. CPaaS 事業 2. UCaaS 事業 3. クラウドアプリケーション/IT/ネットワークに関する コンサルティング及びインテグレーションサービス
設立	2018年8月
資本金	35百万円
従業員数	2名（2018年10月31日現在）
本社所在地	東京都港区白金1-27-6 白金高輪ステーションビル6F
役員構成	代表取締役 社長 吾郷 真治 取締役 天田 貴之 取締役 二村 廉太 取締役 野中 昭男 監査役 渡辺 俊一

【免責事項】

本資料に記載された計画、見通し、戦略等の将来に関する記述は、現在入手している情報に基づく当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。

実際の業績は、経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

また、本資料に記載されている当社グループ以外の企業などに関する情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

お問い合わせ先

株式会社ネクストジェン IR担当

TEL 03-5793-3230(代)

HP <http://www.nextgen.co.jp>